

| 第5回 多治見市上下水道事業経営審議会 議事録 | |
|---|---|
| 日 時 | 令和7年11月12日（水）13時30分～16時00分 |
| 会 場 | 多治見市池田下水処理場 旧管理棟1階 展示室 |
| 出席委員 | 丸山恭司委員（会長）、森川朋美委員、長江信行委員、曾我良樹委員、佐々木千裕委員、加藤裕美委員、星野保隆委員 |
| 欠席委員 | 無し |
| 多治見市（事務局） | 高木市長、知原建設水道部長、村瀬参与 上下水道総務課：堀田課長、富田窓口Gリーダー、渡辺経理Gリーダー、 小木曾、毛利、松崎、木原、梶田 上下水道工務課：岡田課長、杉浦水道Gリーダー、守屋下水道Gリーダー 上下水道施設課：渡辺課長、大野プラント管理Gリーダー |
| 議事概要 | |
| 1 審議会の成立について | |
| 2 新委員の紹介 | |
| 3 議事録署名委員の指名 | |
| 4 水道料金改定についての進捗状況の報告 | |
| 5 令和6年度決算の報告 — 水道事業の決算について資料に基づき事務局より説明 — 【質疑応答・討議】 ・委員から、令和6年度の有収率が前年度より1%悪化した原因と有収率を上げるために実施した取組について質問があり、事務局から、水道管路の老朽化に伴い漏水件数が年々増加し有収率を下げる原因となっていること、来年度以降は漏水調査と更新事業に係る費用を増額し、年1.5%の管更新を着実に実施することで、有収率の向上につなげていく考えであると回答した。 ・委員から、管路の更新は多額の資金が必要となるため、費用対効果を考えた上で実施する必要があるとの意見とともに、漏水調査の委託先について質問があり、事務局から、漏水調査に関する専門的な知見を持つ業者に業務を委託していると回答した。 ・委員から、具体的な調査の方法について質問があり、事務局から、配水池ごとに有収率を算定していること、有収率が低い区域から重点的に調査していると回答した。 ・委員から、下水道事業を将来にわたって継続させるためには、民間に委託せず、市職員を育成し対応させる考えはないか質問があり、事務局から、以前は職員が漏水調査をしていた時期もあるが、現状の組織体制では対応が難しいため、現時点では外部委託が適切と考えていると回答した。 | |

- ・委員から、年々物価と人件費が上がる中、業者への委託料も上がることが予想される。委託料の上昇は水道料金の値上げにもつながること、事業の継続性という点では、長期的な視点で職員を育成した方がよいこともある。市はどのように人財育成を進めていくべきか質問があり、事務局から、技術職員の確保が難しくなっている時代背景と合わせ、概ね4年の異動サイクルを考えると人財育成は難しい状況であること。一方で、経験の浅い職員を研修に参加させ、技術継承の土壌を徐々に整えているが、技術力の育成には課題があると回答した。議長から、外部委託については、コストが固定的か、流動的かを含めて考えていくべきである。発注者側に知識がないと、成果の質に差が生まれるので、仕様設定や成果の確認方法をしっかりと構築してほしいとの意見があった。
- ・議長から、経営指標の分析の中で効率性の部分が、施設利用率が△となっている。施設利用率は、一日の配水能力と配水量の比率である。指標を改善するには、配水能力を下げる必要がある。その方法としてはダウンサイジングが考えられるかとの質問があり、事務局から、施設利用率は人口減少に伴い下落することが予想されることから、施設更新時に水需要を予測し、適当なサイズ・規格の容量に見直していく予定であると回答した。議長からは、更新のタイミングで適切なサイズにダウンサイジングしてほしいとの意見があった。

— 下水道事業の決算について資料に基づき事務局より説明 —

【質疑応答・討議】

- ・議長から、4条予算の不足分に過年度損益勘定留保資金から8億7千万円を補填するという説明であったが、当年度の減価償却費は18億円あるので、そのまま補填できないか、考え方に関する質問があり、事務局から、過年度の損益勘定留保資金があるため、過年度分から優先的に補填すると回答した。さらに議長から、将来の4条予算の不足に備えて、内部留保資金の規模感を決めているのか質問があり、事務局から、経営戦略で試算した将来の事業規模を考慮し、内部留保資金の必要額を決めていると回答した。
- ・委員から、収益的支出からは、利益の使途や現金の流れ、財源不足に対する補填方法がわかりづらいとの指摘があった。事務局から、現金の流れは、キャッシュフロー計算書で確認できるが、今回の資料では提示していない。来年度以降、わかりやすく説明できる資料に改善していくと回答をした。
- ・委員から、「雨水公費・汚水私費の原則」によれば、下水道使用料で汚水処理費用を賄うのが本来だと思う。収益的収支では、下水道使用料で全ての汚水処理費用が賄えているのか、雨水処理費用を雨水処理負担金で賄えているのかがわかりづらい。雨水処理費用と下水道使用料の金額と算定根拠について、わかりやすく説明してほしいとの意見があった。さらに議長から、雨水処理費用と汚水処理費用を区別することで見える化が進み、透明性が高まるので、検討するようにとの意見があった。

— 農業集落排水事業の決算について資料に基づき事務局より説明 —

【質疑応答・討議】

- ・議長から、他市では農業集落排水事業を統合してから公共下水道で吸収した事例があると聞いているが、事業規模を考えると全部合併浄化槽にする方向性もあると考える。現時点での方向性について質問があり、事務局から、事業規模としては小さいため、施設更新の是非を

検討する際には更新と合併処理浄化槽のどちらを選択するか、判断する必要があると回答した。

6 施設見学

(1) 虎溪山配水池

(2) 池田下水処理場

7 閉会挨拶

上記会議の顛末を記録し、相違なきことを証するためここに署名する。

令和 8年 1 月 23 日

多治見市上下水道事業経営審議会議長

多治見市上下水道事業経営審議会委員

多治見市上下水道事業経営審議会委員
